

鶴岡市所蔵 美術作品

鶴岡市が所蔵する作品の一部を公開し、郷土ゆかりの芸術家とその作品を紹介します。

■ 日本画

いとう きくい
伊藤 喜久井 1911（明治44）－2002（平成14）年

11月15日、鶴岡町七日町（現 鶴岡市本町）に生まれる。1923（大正12）年、山形県立鶴岡高等女学校（現 鶴岡北高等学校）へ入学。在学中、小貫博堂の指導を受ける。1928（昭和3）年、同校卒業。同年、女子美術学校（現 女子美術大学）日本画師範科へ入学。1932（昭和7）年、同校を卒業。小貫の紹介で荻生天泉に師事する。日本画会展、女子美術院展、日本画院展などに入選する。教育絵画展覧会には1932（昭和7）年の第19回展以降、毎年出品。1945（昭和20）年、鶴岡に帰郷。1949（昭和24）年、在郷の日本画家らとともに丹青社を設立。1955（昭和30）年以降は、白鷺社における日本画部門の充実を図り、後継者の育成と日本画の普及発展に尽力する。1972（昭和47）年、新興美術院会員となり、以降、多くの賞を受賞する。1979（昭和54）年、鶴岡で火曜会（現 佳陽会）が結成され指導者となる。1997（平成9）年、鶴岡市市政功労者表彰を受ける。1998（平成10）年、第44回齋藤茂吉文化賞を受賞。1999（平成11）年、山形県美術連盟の名誉会員となる。2002（平成14）年、白鷺社委員長に就任する。同年、6月8日逝去。春光会会員。新興美術院参与。



《浜の女》
1991（平成3）年
紙本着色
116.7×90.9 cm（F50号）

■ 油彩画

いまい しげさぶろう

今井 繁三郎 1910（明治43）－2002（平成14）年

2月、羽黒町（現 鶴岡市）に生まれる。鶴岡中学校卒業後、芝絵画研究所、尾口古典美術研究所に学ぶ。1936（昭和11）年より1941（昭和16）年まで美術雑誌『美之国』の編集長を務める。1937（昭和12年）より1964（昭和39）年まで自由美術協会に所属。1977（昭和52）年、光陽会運営委員となる。その間白鷺社のリーダーとして活躍した。1979（昭和54）年、齋藤茂吉文化賞受賞。1996（平成8）年、鶴岡市特別文化功績賞受賞。2001（平成13）年、羽黒町名誉町民推挙。91才で逝去。



《白嶺月山》 1989（平成元）年 キャンバスに油彩 90.9×116.7 cm（F50号）

■ 油彩画

さいとう ちとむ

齋藤 求 1907（明治40）－2003（平成15）年

10月20日、鶴岡町高畑町（現 鶴岡市山王町）に生まれる。1920（大正9）年、山形県立鶴岡中学校（現 鶴岡南高等学校）へ入学。1924（大正13）年、野坂是勇、武田儀助らと美術団体白虹社（現 白鸞社）を創立し、第1回展を大宝館で開催する。以降、同展に出品を重ねる。1927（昭和2）年、東京美術学校（現 東京藝術大学）西洋画科へ入学し、藤島武二、中山巍に師事する。1929（昭和4）年、第16回二科展で入選。1931（昭和6）年、第1回独立美術協会展で《ウェイター》入選。以降、同展で入選と受賞を重ねる。1945（昭和20）年、鶴岡に帰郷。1947（昭和22）年、独立美術協会会員に推挙。1951（昭和26）年、鶴岡南高等学校教諭となる。在職中、白鸞社の会長職委員長として、郷里の美術振興に尽力する。1968（昭和43）年、教員を退職し、東京に転居。1991（平成3）年、独立美術協会特別功労賞を受賞。1994（平成6）年、鶴岡市特別文化功績賞を受賞。2003（平成15）年12月24日逝去。東京・庄内を中心に個展を多数開催。大胆な構図と色彩豊かな表現で女性や風景を多く描いた。



《画室の裸婦》 1984（昭和59）年 キャンバスに油彩 130.3×162.1 cm（F100号）

■ 油彩画

じぬし ていすけ

地主 悌助 1889（明治22）－1975（昭和50）年

7月22日、鶴岡町最上町（現 鶴岡市上畑町）に生まれる。1905（明治38）年に山形県立荘内中学校（現 鶴岡南高等学校）を中退、のち検定試験を受けて小学校の教員となる。1914（大正3）年、文部省中等教員検定試験図画科に合格。翌年、秋田県師範学校教諭となる。1924（大正13）年、山口県女子師範学校教諭となる。1925（大正14）年、帰郷し山形県立鶴岡中学校（現 鶴岡南高等学校）の図画工作教諭となる。同年、美術団体白鷺社の会長となり、郷里の美術振興に尽力する。1950（昭和25）年、教員を退職。1954（昭和29）年、神奈川県二宮市に転居し、絵画の制作に専念。1956（昭和31）年、丸善（東京都中央区日本橋）で初個展を開催し、小林秀雄から評価を受ける。以降、東京を中心に個展の開催を重ねる。1971（昭和46）年、第3回日本芸術大賞（新潮文芸振興会）を受賞。1975（昭和50）年11月26日逝去、鶴岡市の保春寺に葬られる。石や紙などのモチーフを特徴とし、写実的な静物画を多く残した。



《縁側の板》 1952（昭和27）年 キャンバスに油彩 50.0×60.6 cm（F12号）

■ 水彩画

かがやま こうたろう
加賀山 鋼太郎 1907（明治40）－2003（平成15）年

11月28日、鶴岡町泉町（現 鶴岡市泉町）に生まれる。1923（大正12）年、山形県師範学校（現 山形大学）本科第一部へ入学。1927（昭和2）年、同校を卒業。同年、鶴岡町立朝陽第一尋常小学校（現 鶴岡市立朝陽第一小学校）訓導となる。以降、教育絵画展覧会の運営を支え続ける。1938（昭和13）年、第25回記念教育絵画展覧会で多年の功績により感謝状を受ける。戦後は小学校、中学校の教諭、校長を歴任したのち、1967（昭和42）年に退職。1971（昭和46）年、第59回日本水彩展で《かれい》入選。以後、入選を重ねる。1974（昭和49）年、白鷺社会員となる。1980（昭和55）年、第68回日本水彩展で奨励賞受賞。1985（昭和60）年、日本水彩画会会員となる。1995（平成7）年、『加賀山鋼太郎水彩画展画集』を発行。同年、勲五等雙光旭日章受章。1998（平成10）年、『小貫博堂と庄内の美術家』（白鷺社）を執筆。2003（平成15）年7月29日逝去。



《魚貝図》 1980（昭和55）年 紙に水彩 79.0×109.5 cm（F40号）